第４回　三次市立小中学校のあり方に関する基本方針策定委員会　議事録

<table>
<tr><td>件名</td><td colspan="3">第４回　三次市立小中学校のあり方に関する基本方針策定委員会</td></tr>
<tr><td>日時</td><td>令和 6 年 11 月 25 日(月)
14：00～16：00</td><td>場所</td><td>三次市役所本館 6 階
601・602 会議室</td></tr>
<tr><td colspan="2">出席者（策定委員）15 名</td><td colspan="2">出席者（事務局・基本方針策定支援業務受託者）</td></tr>
<tr><td colspan="2">・林会長　・今井委員
・小川副会長　・池上委員
・田中委員　・佐々木委員
・藤川委員　・長尾委員
・岩崎委員　・三上委員
・森川委員　・次川委員
・福田委員　・住岡田委員
・髙田委員</td><td colspan="2" rowspan="2">・迫田教育長
・宮脇教育部長
・豊田教育部次長
・渡部課長
・藤本課長
・今井係長
・新谷係長
・曲田専門員
・平主事
・（株）エブリプラン 2 名（基本方針策定支援業務受託者）</td></tr>
<tr><td colspan="2">欠席者（策定委員）5 名
・浦田委員　・安田委員　・増田委員
・水越委員　・岡崎委員</td></tr>
<tr><td>議事</td><td colspan="3">（１）報告事項
①教育に関するアンケート＜保護者対象＞について
②第３回策定委員会の意見概要（振り返り）
（２）協議事項
①基本方針（素案）について</td></tr>
</table>

１　開会

事務局　定刻となりましたので，ただ今から「第４回三次市立小中学校のあり方に関する基本方針策定委員会」を開会させていただく。

傍聴の希望があるので，入室を許可する。
～傍聴者（３名）入室～

本日の第４回策定委員会への欠席委員を報告する。
～５名（浦田委員，安田委員，増田委員，水越委員，岡崎委員）の報告～

２　報告事項

（１）教育に関するアンケート〈保護者対象〉について

事務局　～資料１に沿って説明～
内容について，ご意見やご質問等あれば伺う。

池上委員　アンケートの有意性について伺う。
保護者アンケートについては，回答者が約 2,600 人のうち約 900 人で回収率が約 30％と低く，「分からない」という回答が全体の 4 割である。また，回答

者のうち85%が女性である。この結果をどう捉え，対外的にはどのような説明をすればよいか。

事務局　アンケートの回収率については，母数の３割あれば有意性があると言われている。回収率としては多くの声が集約されているものと考えている。回答数は各家庭一回とお願いしており，今回は母親に当たる方が多く回答されたと捉えている。

林会長　数字そのものをそのまま使うだけでなく，アンケートの信頼性と有意性を明確に示す必要がある。ＰＴＡ会員数が 2,630 人とあるが，これは重複を含む可能性がある。兄弟関係を除くなど，正確な母数が出れば，より有効なものになる。

（２）第３回策定委員会の意見概要（振り返り）

林会長　～資料２に沿って振り返り～
内容について，ご意見やご質問等あれば伺う。

池上委員　資料２の意見概要について見直しをお願いしたい。
資料２（【学校配置について】）について，第３回策定委員会で，議論の過程として，各委員の意見の中で具体的な地名を用いて議論が行われ，その内容がそのまま記載されている。我々は三次市の学校のあり方を基本とする方針を検討するメンバーであり，具体的な配置先までを検討するメンバーではない。資料として残すものについては，具体的な地名を交えた表現は「複数のブロックに分け，適正な位置に再配置をする」のように改め，誤解を招かないようにしていただきたい。

林会長　具体的な地名を用いた検討経緯については，それぞれの意見として受け止めた。策定委員会は何を言ってもよい場だが，審議した資料として残っていくものは「具体的地名が出ながら検討された」というように整理すればよいと思う。良い意見であったとしても，その部分だけを捉えられてしまう可能性があるため，議事録や残る資料については整理できればよいと思う。
私も地名を含む意見が出た場合に，どのように捉えればよいか分からない部分もあったため，取り上げて，こういう意見があったという説明はしなかった。そういう意味では今後，策定委員会の中で，方向性について考え，それに沿ったものを教育委員会が提示し，市民の皆様に意見を伺うというようにすればよいと思う。

事務局　委員の皆様からの率直な意見を踏まえた内容を今回の方針に反映していく。
委員の皆様の思いをどのように方針に繋げていくかを事務局でまとめ，市民の皆様に情報提供するときは，その本意が伝わる形で整理していく。

３　協議事項

（１）基本方針（素案）について

事務局　～資料３に沿って説明～

林会長　基本方針素案のＰ５の「Ⅳ小中学校のあり方に関する基本方針（２）学校と

地域との連携・協働」までを前半，「（３）一人ひとりに豊かな教育環境を保障するための「望ましい学校の規模及び配置」について」からを後半として，２つに分けて協議をしていく。
前半部分について，ご意見やご質問等を出していただきたい。

小川副会長　Ｐ３～Ｐ４にかけて，学校・家庭・地域の協働について書かれている。
これからの学校教育やコミュニティ・スクールのあり方について，子どもファーストであることを考えた上で，三次市と地域とが協働して子どもの教育にあたるための役割分担が示されているが，各項目をもう少し分かりやすく整理してほしい。この部分が肝であると思う。地域連携，学校と地域など，さまざまな表現があるが，市民の皆様がハッと思うような，みんなで子育てしていかないといけないと思えるように，子どもの健全な育成に向かって，役割分担という考え方を前面に出してみてはどうかと思った。
重複する役割もある。アンケートに「分からない」という回答が多くあるように，どちらの役割なのか，みんなでやるのが望ましいが，それができなくなっている状況も確かにある中で，コミュニティ・スクールや学校の役割を示し，協働して子どもを育てていくことが明確にわかるよう示されるとよい。

今井委員　児童生徒のことについて書かれているため，児童生徒という言葉はなくても通じるのではないかと思った。文章が羅列してあると読む人にとってわかりにくくなる。これは小中学校のあり方に関する基本方針なので，児童生徒が中心にあるのは明確である。分かり切った言葉は省略し，何を訴えたいのかをインパクトがある表現にすると，次を読みたくなると思う。
説明文を整理し，同じような言葉を取ると，分かりやすくなる。訴えることも大事だが，読み手が受け取れるよう，紛らわしい表現は整理するべきである。言いたいことを端的に示し，その後に説明を書くといった流れにすると分かりやすいのではないか。

岩崎委員　Ｐ３の（１）アに「・特別な支援が必要な児童生徒に対する個別支援や特定分野に特異な才能のある児童生徒が高度な学びの機会にアクセスすることができる環境の創出」とあるが，才能の有無はどのように判断されるのか。

事務局　学習が困難で支援が必要な児童がいる一方で，近年，知能が高くてある一定の分野に関して秀でた知能を発揮する子どももいる。
そうした中で，子ども全員にとって個別最適で，かつ一つのクラスの中で集団的にも学べる協働的な学びを進め，誰ひとり残さずに勉強を進めるやり方が全国的に進められている。まだ本市ではそういった対象の子どもに対して特化した教育はできていない状況ではあるが，今後，多様な子どもたちの居場所としての環境整備を考えていかなければいけないといった背景から，この言葉を入れている。

岩崎委員　学力の高さではなく，芸術的な才能を示すものか。

事務局　一人ひとりの違いを認め，授業の中でも具体的な得意・不得意を活かせる授業にしていくことが大切である。特別に配慮が必要な子ども，例えば障がいがある子どもや，なかなか一緒に学ぶことが難しいという子どもへの対応は

今も行っている一方で，飛びぬけて得意な分野がある子どもに対しても，日常や授業の中でその得意を伸ばせる学びもしっかり創っていくという意味である。ご指摘いただいた意味合いも含んでいる。

林会長　難しい言葉に注釈をつけて意味を補足することも必要である。だが，そうすると中身が長くなり，先ほどまで出た意見と対立する場合もある。概要版と本編といった二本立てで作り，対応することも可能ではないか。

事務局　小川副会長の「役割分担で整理をしたほうがよい」という意見，今井委員の「文章的に羅列するよりも，読み手に伝わりやすいように書いていく」という意見については，今一度検討させていただく。

小川副会長　Ｐ３の「１めざす学校教育（重点事項）」に「すべての学校で，児童生徒・教職員の『自立，共創，ウェルビーイング』をめざす」とある。「ウェルビーイング」は調べて初めて知った言葉だった。

分からないからこそ調べる人と，読むのをやめる人がいると思う。アンケートの「分からない」という回答も，難しいから「分からない」と回答した人が多いと推測する。そうした意味でも分かりやすいものと，きちんと説明したものを２つ作るとよいのではないか。

この基本方針は三次市の皆様に読んでいただくことが大前提である。理解していただく前に興味を持っていただく書きぶりが大切である。

ウェルビーイングは究極的な幸せと書いてあった。みんなそうなればよい。

冒頭にこれが示されているということは，ここをめざしていくという決意の表れだと捉えた。その決意を分かっていただくためにも，分かりやすく伝わるように書いてもらえると嬉しい。

林会長　「（１）学校における『学び』について」の内容は，全国的にもめざすべきことで，三次もこれをやっていくという意味合いで書かれている。分かりやすくするという点については，書きぶりで解決できるところもあるかもしれない。

「（２）学校と地域等の連携・協働」については，「（１）学校における『学び』について」でも連携・協働について触れているが，取り上げて書かれている。

（１）をさらに確実にしていくために，（２）があると考えている。

その他，前半部分について，ご意見やご質問はないか。

委員一同　なし。

林会長　続いて，後半の「（３）一人ひとりに豊かな教育環境を保障するための『望ましい学校の規模及び配置』」について意見を求めたい。

佐々木委員　Ｐ９の「エ　規模及び配置について」で具体的な基本としての数字が出ており，今まで，ここまでは言い切っていなかった。Ｐ９までは地域との連携・協働，小規模のメリットを伸ばしてデメリットを払しょくするという方向だった。急に数字が出ると，市民の皆さんから「これで決まった」と偏った見方をされる可能性がある。この数字になった経緯がわかるようなものにしなければ，誤解を招きかねない。

林会長　数字が独り歩きすることはよくない。最後に「エ　規模及び，配置について」

で，一足飛びで進んでいるような印象を受けるというご指摘だと思う。

小川副会長　数字が出てきたが，ある程度線引きも必要であると考える。これまでの議論の経緯も含め，大小規模いずれにもメリット・デメリットがあることについては理解している。自分の周りや社員の子育て世代の親に聞いてみると，大小どちらに行かせたい親もおり，それぞれに考えがある。そういった意見はこれまでも出てきた。

書きづらいと思うが，学校を存続させるということはお金もかかるし，人もかかる。例えばエの「その際，通学については，国の定める一定の基準と本市の公共交通機関の状況，道路事情等を考慮します。」とあり，ここには通学バスの検討も入ってくると思う。

学校の配置について，人数で割ることも大切だが，それぞれの学校が特色を出し，児童・生徒自ら学校を選べるということをしっかり書いてもらいたい。自由度の高い子育てを応援するのであれば，その点についてもしっかり考える姿勢が示せると保護者も安心する。

子どもファーストで考えても，そこには必ず親がついてくる。親の事情も考えた上での子どもファーストでなければならない。選べるのであれば，行政として通学手段の保障も考え，国の定める一定の基準以外の基準も確保するということが書ければ前向きになると思った

林会長　書きぶりについては，学校教育や配置の現状の課題を書き，そのためにはどうしていくというように書いていけばよいと思った。

アンケート調査結果は，どこに載せるかによって印象が変わる。こういう状況があり，よってこのような規模・配置を考えると示されると，単式・複式などの基準がどのように出てきたのかが分かる。

Ｐ１０の「（４）学びの環境の広がりについて」が，付け足しのようになっているため，もっと前にあってもよいのではないかと感じた。これまで進めてきた施策を継続するか，小規模特認校や学びの多様化学校の導入について検討するかについては，書かれている場所によって印象が変わる。

一人ひとりを大事にした教育を進めていくために何を考えるべきかをきちんと訴えなければならないと思わされた。保護者は自分の子どもが卒業したらもう学校のことは考えないかもしれないが，次に育つ子どもたちをどんな学校で育てたいかということを責任もって考えてほしい。

高齢者からの「地域に学校がなくなると困る」という意見は，実際は地域が困るというよりも，子どもたちしっかりと学ぶ場が地域にあったらよいということを言い換えているのかもしれないと思った。

今井委員　「（３）一人ひとりに豊かな教育環境を保障するための『望ましい学校の規模及び配置』について」でアイウエと並び，エの後に突然アンケートの数字が出てくる。アイウでこれまで説明し，その流れに沿ってエとなっているのだろうが，アンケートの後に（４）がきており，自然な流れになっていれば受け取りやすいと思う。

ウで検討の必要性が冗長に書かれているが，最後にエでなぜ規模・配置につ

いて確定するのか，無理矢理決めたように感じた。林会長の言われるように，何を大事にしたいから，この数字が出てきたと自然に流れていれば受け取りやすいが，ウとエが並べてあることが疑問に感じた。ウとエは並べてよいのか疑問に思った。

池上委員　１学年 20 人以上を求める声があることは，今までの検討やアンケート調査から理解できるが，中学になったら「２クラス以上」と書かれている。アンケートを見ると，「１学年１クラスの学校や，２クラス以上の学校など，学校によってクラス数が違い，選択できる」を選択した人が相当数いる。クラス替えがないとトラブルも発生することはわかるが，いきなり２クラス以上にはしないほうがよいと考える。

住民自治組織の会でも話をしたが，少子化の状況も，学校が地域からなくなれば寂しくなることも理解している。地域の発展と学校・教育の話は別に考えなければならないと強調された方がおり，私もそうだと思った。地域と子どもの教育を一緒に考えがちだが，そこは一線を置いて考えた方がよいと考える。

林会長　コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進だが，統廃合で学校そのものが少なくなってきたときには，既存の自治組織複数とコミュニティ・スクールという関わり方にかわってくると思う。

その際に，どのような形で推進していくのか，子どもの教育を中心に見たときに，良い学校には良い地域がある，良い地域には良い学校がある，良い学校は良い地域を作るということがコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進が意味していることであると考える。子どもにとっての教育の適性規模，それに基づく配置を考えていかないとなかなか難しいと思わされた。

最初に素案を見せていただいたときにはメリットやデメリットがあり，教職員の配置の課題があり，それを克服していくために，どんな方向で考えなければいけないのか，そのためには規模や配置がこのようになるという筋道が見えた。しかし，三次市がこれまでやってきたことの成否，うまくいっていることや課題，変えないといけないことの切実感がこれだと見えないと思った。

私自身，複式のある学校の校長も兼務していた。複式には力がある教員が必要である。そこは作られた複式であったため，単式の学校も一緒にあり，子ども同士の交流があった。複式の良さと単式の良さのどちらもがあった。特別支援学級も３学級が複式でそれぞれあり，それが一緒になった学校であったため，子どもたちがうまく育っていたし，教員の数もそれなりにいた。

三次市ではこのような体制の学校運営は難しいと思う。そうなると，どのような教育が良いかを考えていかなければならない。複式学級が悪いのではなくて，力のある教員がいて，子どもたち同士の学び合いができれば素晴らしい教育ができる。しかし，そうとばかりは言えない現状がある。複式学級になり，上学年が１人，下学年が３人，あるいは０人といった状況になったと

き，学びの場だけでなく育ちの場を保証すると考えると，学校という場がどうあるべきかを考える必要がある。このようなことを踏まえて，皆さんで熟議していただきたい。
他の市でこうした検討を行った際に，委員の方が，自分たちは複式の中でしっかり勉強してきたということをこと語られていた。今もそうかもしれないが，それをずっと続けられるかといえば難しいということを理解しながら話を進めないといけない。
教育委員会が素案を描いていると思わないでほしい。こういう状況に置かれている中で，より良いものを作りたいという教育委員会事務局の思いを汲んで話したい。当事者として作り上げていくことをこの委員会でできればよい。言いたいことは言い，本音で何を言っても良いという委員会でありたいと思う。

田中委員　いろんな委員会に参加するが，委員の皆さんに言いたいことを言ってほしいという呼びかけがある場はそう多くないので素晴らしいと思った。子どもファーストが何度も出ており，やはり学校は子どもたちが健やかに育っていくための場であり，その結果として，地域がよくなるという思いでやっておられることが伝わった。
今日まだ発言されていない方も，お一人お一人が現場で思っていることがあると思う。基本方針が出されると，委員として参加されている皆さんも質問やコメントを求められる機会がある。当事者としていろんな思いがあると思う。正解があるわけではないので，現場で感じていることなど，お一人お一人のお声が聴きたい。

小川副会長　自身も自治会連合会の会議に出ることがある。その際に，住民の方々は学校がなくなったら寂しいと言われる。なぜなのかと考えるが，やはり生まれ育った中で学校が無くなるという経験をしたことがない。そのため，不安だから何となく寂しく感じるのではないかと思うことがあった。
この素案の中にも，たくさんコミュニティ・スクールについて書かれている。今こそ，自治会連合会を中心として，地域でコミュニティ・スクールをつくり，地域として子どもたちを育てていこうというメッセージを発信できたら嬉しい。そうすると，自治会連合会で活動されている皆さんに，地域で育ててやろうと思う機運が生まれるのではないだろうか。地域で子どもを育てるのは昔も今も変わらないと思うので，そのあたりを表現できたらよい。

今井委員　あまりコミュニティについて，大きく出されると大変である。コミュニティ・スクールと言われると格好良いが，地域の人が学校に入るのは大変である。なんでもかんでもコミュニティにきてしまう。やる人たちを探すのも大変で，それが現状である。
コミュニティ・スクールを良いように言われると，やらなくてはいけなくなってしまう。しかしやる人がいない。会長さんは強くおっしゃっておられるが，個々のコミュニティは高齢化し，やる人が限られてくる中で，学校から投げかけられる。なんとか応えたい気持ちはあるが，今の状況下で難しいこ

ともある。

小川副会長　コミュニティ・スクールをやれという号令ではなく，自発的に思っていただける人が出てきて，初めてコミュニティ・スクールだと思う。やれと言われてやるものではないと認識している。

例えば，昨日，うちで餅つきをした。自身がやろうと言い出したわけではないが，なぜかうちで餅つきをやることになり，20 人ほどがお子さんを連れてこられた。私の中では，頼まれて，やりたいからやっただけだが，地域には餅米を持ってきてくださる方がいたり，杵や臼を持ってきてくださる方がいたり，つき方を指導してくださる方がいたりと，この関係性がコミュニティ・スクールだと思った。やれと言うのではなく，やってあげたいという気持ちを押し付けるのではなく，見える化をし，見た人が自発的に協力してくれるような関係性づくりからだと思う。

そのような地域になって，初めて子どもたちは，チャレンジしてよいと思うし，大人たちが楽しく地域の中で活動していると分かる。おっしゃっていることはよく分かる。ほとんどがそのような現状ではあるが，そこから変えていきたいと思っている。

田中委員　どう具体的にしていくかは現場の声あってこそである。どうしたらいいか分からない，現状はこうだということを伺いたい。どんな選択肢があるかを詰めていければいいので，自分はこうだということをお聞きしたい。

池上委員　住民自治組織は緩いつながりで学校とつながっており，強制力などはない。いろいろと手伝いをしているが，学校の教育基本方針を決めるのは学校長で，学校の協議会が中心となっている。何もかも住民自治組織が取り仕切るということではなく，学校評議委員会があり，そこで基本方針を定められ，校長に打診されて手伝うというつながりがコミュニティ・スクールである。住民自治組織が出てきて，これをやるというのがコミュニティ・スクールではないと思う。

我々は，将来人口が減ることを想定してやっている。若い子どもを連れたお母さんを都会から引っ張れれば，人口が増え，子どもの数が増えるという統計がある。なかなかＩターンやＵターンはできていないが，住民自治組織はそこに向けた活動をしていく必要がある。住民自治組織は高齢化が進んでいるので，委員の皆様にも協力をお願いしたい。

森川委員　三次中学校区ではモデル校として，学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な推進が３年目に入り，成功しており，心配することはない。地域の方々が自治連を当てにするのではなく，自治会連合会の各種団体の方々が，学校運営協議会の推進員に依頼する。推進員の十数名だけで全てコミュニティ・スクールを行うというのでなく，運営委員会の推進員が中心となって各委員に話をする仕組みである。

先般も生徒たちと熟議したり，色々な形で行事を開催した。特にキャリア教育については，コミュニティ・スクールのメンバーが必要である。小学校は反省点も多く，難しい内容になったが，中学生とのキャリア教育については

全ての学年と教職員含めて，コミュニティ・スクールの中で熟議し，生徒たちが企画立案したものを地域の人たちが入り込んでやっている。今すでに，推進員は 15 人程度しかいないが，実際は 30 人近くが生徒と関わっている。生徒がしたいことを委員に直接話すこともある。前に進んでいる感覚がある。先般，30 人～40 人の生徒を３グループに分けて，地域の人たちが入って企画する機会があった。30 人いるとグループ分けをすると，グループ同士で横のコミュニケーションを取り合い，一丸となって取り組んでくれた。もし，この人数が少なくなってしまったら，どうなるかと考えたりもした。
コミュニケーションも活発で，自己肯定感も高まり，良かったと思う。来年も１年生の地域づくりについて考える学習を予定している。ただ，小学校との関係は難しい面もある。小中９年間というのは難しいが，小学５・６年生と中学生を結びつけ，先生も含めて地域と一緒になってやっていくことが大切である。三次市でも，地域学校協働活動の推進員も 12 名決まっている。コミュニティ・スクールは子どもたちにとって良い面があることを知っておいていただきたい。何かあればどこの学校でも行くので呼んでほしい。

林会長　コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の推進が，中学校区でうまくいっているという話だった。今後，規模や配置を考えていく中で，小中で一体的な運営をするのはなかなか難しい。コミュニティ・スクールのあり方の再編に向けた検討も出てきていると思う。

藤川委員　素案を何も考えずに読むと，Ｐ９の「エ　規模及び配置について」の数字が気になる。Ｐ１０「（４）学びの環境の広がりについて」に「学校を自由に選択することができる通学区域自由化については，継続していきます」とあるが，今まで出てきた資料については児童生徒の推移があるものの，合計の児童生徒数は当てにできるが，小学校から違う中学校区にいくことがあると思う。行政は把握していると思うが，リアルな数字も考慮するべきだと考える。そこがどう配置に結び付くのかが気になる。

事務局　今回の数字は前回も示したものであり，より実数に近い数字である。中学校については進路選択の幅が広がる。小学校から中学校へ進学する際は，実数のスライドではなく，他の学校を選ぶことを考え，目減り率を加味したもので学校別の表を作っている。３学年の合計の数値のため，これを学年ごとでみるとよりその規模感がイメージできると思う。

岩崎委員　小規模校の良さを思う立場として問う。Ｐ９「（３）エ　規模及び配置について」で，「小学校における完全複式の解消」は最優先に取り組む事項となるのかを伺いたい。自身は複式の良さを感じながら育っている。子どもも複式で育って成人になった。Ｐ５までを見ると小規模校の方が勝るのではないかと思うくらい，良い環境で子育てさせてもらっていると感じる。
先ほど会長も言われたように，先生のスキルが大切になってくる。複式で教える先生への，複式での教え方についての指導は行われているのか。ぜひとも先生には頑張っていただき，先生のスキルを高めて複式をもっと伸ばせたらいい。

事務局　　現在，本市にはたくさんの複式学級があるので，複式のあり方や指導方法についての研修は大変重要だと考えている。今年度 10 回，全教職員対して授業に関わる研修を行い，各部会に分かれて行っている。複式学級を担当する教員に対しては複式の部会で研修を行っている。ベテランで複数年，複式学級をもったことがある教員と，教職経験自体も浅い中で複式を持っている教員が混ざり合いながら，指導力を高める教育を行っている。しかし，若年層の教員が増え，通常学級での指導もベテランの教員に比べて，熟練していない教員が，複式で二つの学年を教えるということに関しては，より指導力が必要と捉えている。教育委員会でも支援は行っているところである。

事務局　　小学校における完全複式の解消は最優先で進めたいと考えている。いろいろな意見があることは承知しており，委員会の中でもたくさんの意見をいただいた。しかし，子どもの学びには一定の集団が必要だと考えており，最優先で進めていくこととしている。

林会長　　三次市教育委員会として大事にしたいことと，委員のみなさんの意見を踏まえ，子どもたちにとってより良い計画になることを期待する。

委員のみなさまには，円滑な進行にご協力いただき，ありがとうございました。ご協力により，予定していた協議事項は終了した。

本日の協議内容を含め，事務局で整理され，第５回の策定委員会では関係資料や各種データ等の掲載も含め，「基本方針（素案）」を協議していくこととなる。委員の皆様には，引き続き，ご協力をよろしくお願いする。それでは進行を事務局にお返しする。

迫田教育長　　本日も貴重な時間を頂戴し，忌憚のない議論をしていただき，ありがとうございました。それぞれの立場から十分に出し切れない部分もまだおありか思う。電話・メールでもお寄せいただきたい。

繰り返しお願いしてきたが，どうすれば子どもたちの学びがより豊かになるのか，よりよい学校になるのか，自分事として真剣に考えていただいたと思っている。

私たちがどのような状況をめざしたいのか，ビジョンを共有できていることは間違いない。魅力ある学校づくり，子どもたちが本当に健やかに成長していく学校環境を三次の中でどう実現していくか，そのために皆さんでお話していただいた。

どこであっても健やかな教育ができることについて，それぞれ異なる価値観はあるが，４回の委員会を通じて，自身を含め，これまでの価値観を問い直す作業をやってきた。小さな規模になれば統合する，学校あっての地域，地域が学校に協力するべきもの，子どもが学校に合わせるべきなど，そういったものではない。将来において子どもたちが何を求めているのかを考えていくために価値観を問い直すことが重要だと思う。

いただいた意見を整理し，次回の委員会で示したい。また，それぞれの委員の皆様にも今日の意見を踏まえてそれぞれが問い直し，振り返りをしていた

だきながら，めざすものを共に創っていただきたい。
次回，またよろしくお願いしたい。

４　その他（連絡事項）

事務局　　林会長，進行ありがとうございました。

第５回策定委員会は，いただいた意見等を踏まえ，基本方針の（素案）をお示していく中で，協議をおこなっていく予定である。
次回の開催日程の連絡である。第５回策定委員会は，１２月２０日（金）の１４時から，三次市役所において開催する。
また，パブリック・コメントを実施する予定である。どのような意見があるかを各委員がそれぞれ所属されている団体内で聴取願いたい。また意見共有の場を持ちたいと考えている。３月には，振り返りの場を持つ予定である。

５　閉会

事務局　　以上をもちまして，「第４回 三次市立小中学校のあり方に関する基本方針策定委員会」を終了する。
本日はありがとうございました。